

平成14年度 21世紀COEプログラム 採択拠点の採択理由

【人文科学】

拠点のプログラム名称	機 関 名	拠点リーダー名	採択理由
心の文化・生態学的基盤に関する研究拠点	北海道大学	山岸 俊男	大学としての支援体制、研究分野の横断的・国際的な構想、資金計画が整っており、若手研究者育成計画も大勢ができています。計画は、実験、コンピュータ・シミュレーション、フィールドワークを総合的に組み合わせた方法論で、心と社会のダイナミックな関係を理論的・実証的に研究するものであり、世界的にみてもユニークかつ高い水準にあり、国際的な研究拠点を推進するポテンシャルは高いと認められる。
言語・認知総合科学戦略研究教育拠点	東北大学	堀江 薫	言語・認知・脳に関する研究ですでに高い実績があり、それらの新たな有機的連携のもとに、言語・認知の総合科学を推進するに当たっては、研究支援体制、若手研究者の育成体制、資金計画など計画がバランスよく整っている。特に、脳機能イメージング法と言語・認知科学の統合的研究は世界的な関心も高く、成果が期待できる。
共生のための国際哲学交流センター	東京大学	小林 康夫	哲学研究における従来の西ヨーロッパとアメリカ中心の二極構造体制を打ち破って、日本を中心とした東アジアの第三極を形成し、アジアの哲学を世界に発信するという意図は高く評価できる。
生命の文化・価値をめぐる「死生学」の構築	東京大学	島園 進	生命倫理・臨床哲学問題が現代の重要課題であることを背景に、医学・心理学などの領域を視野に入れた総合的体系の研究拠点形成構想に対し、大学としても意欲的に支援体制を整えている。また、研究計画の実現性が高いと評価でき、若手研究者の育成も十分に配慮されている。
基礎学力育成システムの再構築	東京大学	金子 元久	我が国のみならず先進諸外国においても、学力問題は今日の学校教育の基本的問題であり、これを基礎学力に焦点を当てて、学校の機能面、教育内容面、公教育制度面から体系的に解明することは貴重な研究計画であり、成果が期待できる。
言語運用を基盤とする言語情報学拠点	東京外国語大学	川口 裕司	拠点形成に対する大学の支援体制はしっかり構想されている。言語学、言語教育学、情報工学の融合による言語情報学の形成を期すとともに、実践的拠点としてのさらなるレベルアップを図るという目的は重要な意義をもつものである。日本におけるこの分野の拠点としての発展が期待できる。
誕生から死までの人間発達科学	お茶の水女子大学	内田 伸子	「誕生から死までの人間発達」を総括的に見据えた拠点形成プログラムは、世界的にみてもユニークであり、最高水準をめざすものとして期待できる。研究方法も周到に構想されており、適切かつバランスのとれた問題の設定とそれにマッチした支援体制が整っている。研究者育成も着実に進められており、一層の発展が期待できる。

【人文科学】

拠点のプログラム名称	機 関 名	拠点リーダー名	採択理由
統合テキスト科学の構築	名古屋大学	佐藤 彰一	言語、図像、身体技法に関わる文化表象を、テキスト科学として構築しようとする野心的な試みとして評価できる。また、大学全体の将来構想と支援体制のなかに十分に位置づけられており、若手育成のための計画にも十分な配慮が認められる。
グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成	京都大学	紀平 英作	「総合的な人文学的知」の実現を、歴史学を中核に据えて図るという点に独自性が認められる。グローバル化に対処する多様な人間の生き方を掘り起こし、意味付けをしていく点を評価する。教育・研究活動の実績においても優れており、世界的水準の拠点になることが期待できる。
心の働きの総合的研究教育拠点	京都大学	藤田 和生	大学の将来構想、本プログラムに対する支援体制ともに評価できる。大学改組に伴う従来の研究科間の相互乗り入れによる人的資源の確保にも努めている。拠点形成計画は独創的なものであり、これまでの実績からも国際的研究拠点を形成することが期待できる。
インターフェイスの人文学	大阪大学	鷲田 清一	諸文化あるいは現代社会をインターフェイスの視点で見直し、人文学の構造改革を試み、アカデミズムを超えたところで人文学を捉えようとする研究教育方法の新しさは評価できる。大学としても拠点形成に向けた支援体制がかなり整えられていると評価できる。
21世紀型高等教育システム構築と質的保証	広島大学	有本 章	拠点形成の目的が具体性をもち、国際社会のなかで高等教育システムのあり方を従来の研究業績をもとにさらに発展させる展望がみえる。大学の支援体制も確立されていると判断できる。
東アジアと日本：交流と変容	九州大学	今西 裕一郎	地の利を生かしたアジア志向型研究拠点を目指すという大学の明快な戦略に沿ったもので、全学的支援を受ける体制が整っている。これまでに築いた研究基盤の上に優れた若手・中堅の研究者を擁し、着実な研究計画が立てられており、期待できる。
都市文化創造のための人文科学的研究	大阪市立大学	阪口 弘之	都市を文化の視点でとらえる伝統的な文化史観を基盤にして都市の社会史に及ぶ構想は、都市型総合大学の伝統を集成したものであり、歴史学領域において世界最高水準の研究教育拠点の形成を推進するには相応しいものであると評価する。また、大阪市及び大学の支援も将来にわたって期待できると判断した。

【人文科学】

拠点のプログラム名称	機 関 名	拠点リーダー名	採択理由
心の解明に向けての統合的方法論構築	慶應義塾大学	西村 太良	塾長のリーダーシップの下、将来構想実現に向けて積極的な取り組みが行われており、本拠点プログラムの支援体制も整っている。「心」の解明にむけて、哲学、文学、心理学、言語学など多領域の研究を統合しようとする試みは重要であり、研究の遂行にふさわしいポテンシャルがあると判断できる。
神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成	国学院大学	小林 達雄	大学が神道を核とした日本文化研究教育の拠点として充実を図ろうとする将来構想とその実現に向けた体制づくりは、全学的支援を得ており、高く評価できる。また、プログラムには具体性があり、若手研究者を養成できるシステムとなっている。
日本発信の国際日本学の構築	法政大学	中野 榮夫	大学の将来構想の中核に位置づけられており、国際日本学研究所・能楽研究所・沖縄研究所をつなぐ研究推進体制が構築されている。国際日本学インスティテュートの教育計画も私学の自由な発想の現れであり、成果が期待できる。
演劇の総合的研究と演劇学の確立	早稲田大学	伊藤 洋	坪内逍遙由来の演劇博物館を基盤として、世界的視野にたった演劇学を確立し、演劇研究センターを創出しようとする構想は、文学・芸術領域における世界最高水準の研究教育拠点の形成を推進するに相応しいものであると評価する。大学の支援も将来にわたって期待できると判断した。
アジア地域文化エンハンスング研究センター	早稲田大学	大橋 一章	大学としてアジア研究の拠点形成に向けて明確なビジョンを示し、それに沿って本プログラムが位置づけられている点を高く評価した。地域文化を通してハイカルチャーを見通すというリーダーの指導力にも期待している。
京都アート・エンタテインメント創成研究	立命館大学	川嶋 将生	大学として具体的な将来構想がたてられ、その実現に向けて積極的な努力がなされている。支援体制も十分であると評価した。京都という地域性を生かして有形無形の文化的資源のデジタル化を軸にコンテンツ研究を深化させるという発想のユニークさを評価する。